

評価結果報告書

地域密着型サービスの外部評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	<u>11</u>
1. 理念の共有	2
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を実践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	<u>2</u>
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	<u>6</u>
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	<u>11</u>
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
合計	<u>30</u>

事業所番号	2372900551
法人名	有限会社 緑風会
事業所名	グループホーム おがきえ
訪問調査日	平成 19 年 7 月 18 日
評価確定日	平成 19 年 8 月 30 日
評価機関名	福祉総合研究所株式会社

○項目番号について
 外部評価は30項目です。
 「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。
 「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。
 番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載しています。

○記入方法
 [取り組みの事実]
 ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。
 [取り組みを期待したい項目]
 確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に○をつけています。
 [取り組みを期待したい内容]
 「取り組みを期待したい項目」で○をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

○用語の説明
 家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
 家族 = 家族に限定しています。
 運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。
 職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。
 チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

1. 評価結果概要表

【評価実施概要】

事業所番号	2372900551
法人名	有限会社 緑風会
事業所名	グループホーム おがきえ
所在地	刈谷市小垣江町永田8-1 (電話) 0566-61-2011

評価機関名	福祉総合研究所株式会社		
所在地	名古屋市千種区内山1丁目11-16		
訪問調査日	平成19年7月18日	評価確定日	平成19年8月30日

【情報提供票より】19年4月1日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成15年9月1日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	16 人	常勤 2 人, 非常勤 14 人, 常勤換算 6.8 人	

(2) 建物概要

建物構造	木造カラーベスト葺き平屋建て 造り 1階建ての 階 ~ 1階部分
------	-------------------------------------

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	51,680 円	その他の経費(月額)	円	
敷金	無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(200,000円)	有りの場合 償却の有無	無	
食材料費	朝食	300 円	昼食	400 円
	夕食	500 円	おやつ	100 円
	または1日当たり	1,300 円		

(4) 利用者の概要(4月1日現在)

利用者人数	18 名	男性	4 名	女性	14 名
要介護1	5 名	要介護2	6 名		
要介護3	5 名	要介護4	1 名		
要介護5	1 名	要支援2	名		
年齢	平均 82.8 歳	最低	73 歳	最高	97 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	石川内科・長沢歯科・刈谷記念病院
---------	------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

ガラス越しの中庭を挟んで左右に天井の高い居間があり、明るく開放感のある作りのホームである。中庭にあるベランダは広く、自由に中庭に出ることができて、ベンチに腰掛けて思い思いに過ごすことができる。中庭とホーム裏側には家庭菜園があり、利用者と共に野菜作りをして食卓に出る楽しみを皆で共有している。日々の利用者とのかわりを大切にして、10時・3時のお茶の時間には利用者と職員が常に同席して、本人の様子を把握できるように雰囲気作りをしている。契約書に利用者の権利と義務が明記され、重要事項説明書には避難計画の概要まで示されており、ホームの指針が明確であることが推察できる。月1回の家族への通信としては、写真入りの「おがきえ便り」と共に個々の状態のお知らせを必ず書いて、送っている。新年には利用者手書きの年賀状を出すなど、工夫が見られる。ホームに必要とされる書類等はこの1年で確かな整備がされており、評価に対する真摯な態度が伺える。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	前回の評価での改善点は、ケアマネジメントにおいて具体的なケアプランの作成ができていないことだったので、生活歴をより詳細に収集し利用者本位の具体的な介護計画の作成に成果をあげている。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	常勤の職員と管理者とで自己評価に取り組まれている。定期的なミーティングにより、問題点を挙げて、その解決を目指して取り組んでいる。評価の結果をプラス思考でとらえサービスの質の向上に活かしていこうとする姿勢が感じられる。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	2ヶ月に1回開催されていて、前回5月の会議内容は「避難訓練の報告」や子供会との交流についてであった。今後もホームの理解と支援を得るための機会になるよう取り組む姿勢である。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	月1回家族に「おがきえ便り」と「状態のお知らせ」を送って、行事の報告や日々の暮らしぶりを知らせている。家族からの意見をよく聞き、不安や苦情の訴えに対してはすぐに対応しており、信頼関係も築かれている。家族の訪問時には、意見や苦情が言いやすい雰囲気づくりに心がけている。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	地域住民の一員として自治会に加入し、地域の行事に参加し地域に溶け込む努力がされている。中学生の体験学習を受け入れたり、園児に遊びに来てもらったり、地域の祭りに参加し、子供たちがみこしを担いでホームに立ち寄ってくれたりしている。又、ホームの駐車場を利用して今年で2回目の夏まつりを8月に開催する準備が進められている。その時には、家族はもちろん町内の人やボランティアの人にも回覧板を回して参加してもらおう予定である。

2. 評価結果(詳細)

外部		自己		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい項目 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営							
1. 理念と共有							
1	1	○地域密着型サービスとしての理念		地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	ホームの理念は「ささえ愛・みつけ愛」として、利用者職員が同じ目線でともに助け合い、ともに暮らすことを掲げている。生活の基本となる大切な意味が込められている理念である。	○	今後も理念に基づいて、日々のケアに活かされることを望む。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み		管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念は玄関や事務所などに掲示されている。管理者は朝礼・ミーティングの場で折にふれ理念について触れており、又、日々のケアの中でも活かされるように取り組んでいる。	○	朝礼やミーティングにおいても折にふれ、理念について話し合いや確認を行って、より一層の啓発に取り組まれることを期待する。
2. 地域との支えあい							
3	5	○地域とのつきあい		事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	秋まつりには子供がみこしをかついでホームへも立ち寄り、地区の中学生の体験学習を今までに3回受け入れて利用者とはかっている。又、時々近所の保育園の子供たちの散歩のとき呼び止めて、少しの間利用者の遊び相手になってもらっている。今年で2回目の夏まつりを8月に開催する予定である。	○	共に暮らす地域住民の一員として、これからも積極的に行事などの参加を続けていくことを望む。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用							
4	7	○評価の意義の理解と活用		運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価及び前回の外部評価の結果は、ミーティングでとりあげ具体的に改善に結びつけるよう取り組みを行っている。前回の外部評価によって、改善できる点はすみやかに対処している。	○	前回の外部評価では書類の不備を指摘されたので、管理者はこの1年間、書類の整備を重点的に行い成果が得られている。
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み		運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回行われる運営推進会議をホームへの理解を得る場としてとらえ、色々な議題について話し合い、その意見や要望をサービスの向上に活かしている。運営推進会議を通じて地域とのつながりが、より強くなった。	○	運営推進会議は、ホームに対する地域の理解と支援を得るための貴重な機会と捉え、継続した取り組みに期待したい。

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	運営推進会議を通して市とも連携がとれるようになってきたので、わからないことがあると市の長寿課に連絡して指導を受けている。又、市の介護相談員を定期的に受け入れている。	○	今後も市とは運営推進会議で取り上げる内容や運営上の課題について相談し、アドバイスを受けるなど、情報の共有化に努めていって欲しい。
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	月に1回「おがきえ便り」と「利用者の状態のお知らせ」を家族に送付している。金銭管理は自分で管理してる人は2名いるがその他の人は、預かり金として個人個人の出納帳を作り、必要に応じて提出している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	契約時には、必ず相談や苦情に対する窓口の説明を行っている。又、折にふれ家族からの意見や要望を聞き出すように心がけている。	○	「気づき箱」の設置を検討中であり、今後の工夫を更に期待したい。
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	3ヶ月から6ヶ月に1度の割合でユニット間の異動をしている。その際利用者に与えるダメージを少なくするように1人ずつ行っている。職員から利用者への朝夕の挨拶は、両ユニットにするようにしている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	認知症関連の研修はなるべく参加するようにしている。研修には非常勤の職員も参加できる体制になっている。研修受講中は勤務扱いとなっている。又、研修レポートの提出を義務付けて、回覧している。	○	職員全員が何らかの研修に参加できるように、年間計画を立てることを思案中とのこと。早期実現を期待したい。
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	刈谷市内の4つのグループホームと交流会を持ち、積極的な情報交換を行い、サービスの質の向上に努めている。	○	他のグループホームでの体験実習に取り組みたいと考えている。他のグループホームで実践している技術や知識を参考にしてよりよいホーム「おがきえ」の独自性を発揮されたい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入所希望者の情報を得て、おためし期間を利用してもらいその上で判断できるように、本人や家族の意思を確認できるよう努めている。おためしをする人はほとんど入所を前提としていることが多い。グループホーム側から何うことはしていない。	○	今後も本人や家族の安心と納得を得るための時間をかけた支援を期待している。
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	ホーム中庭の菜園で利用者から教えてもらいながら季節ごとの野菜を作り、それを収穫し献立の一品とするなどの楽しみごとになっている。ホームの理念のもとに、職員は利用者と共に過ごし、支えあいながら楽しく穏やかな生活ができるよう心がけている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々のかかわりの中で本人の思いを重視し、思いを表現できない人は表情からでもわかるように努めている。そのためにも10時、3時のお茶の時間は利用者職員と一緒に、把握できそうな雰囲気作りをしている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人や家族からは入所の時に意向を聞き、介護計画に取り入れている。又、現場の職員の日々のかかわりの中での気付きや意見を、スタッフミーティングで十分に取り入れ詳しい介護計画になっている。	○	今後も本人の思いや要望を聞きながら、介護計画に反映されることを望む。
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画の見直しは4月・10月とに設定しているが、状態に変化があった場合は随時、検討・見直しを行っている。一人ひとりの状態は毎日詳細に個別記録に記されている。	○	6ヶ月ごとの見直しの期間となっているが、認知症の症状は変わりやすいのもう少し早目の見直し期間とすることを望まれる。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用)					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	本人・家族の状況に応じて通院や送迎等、必要な支援は柔軟に対応している。	○	市の健康診断にスタッフが付き添い家族の負担軽減に配慮している。
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者及び家族との話し合いで、かかりつけ医での受診ができるように支援している。基本的に家族が同行しているが、不可能な時は職員が付き添っている。協力医療機関の病院からは1ヶ月に1回往診に来てもらっている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化や終末期に向けた方針は立てていないが、本人や家族が安心できるようにグループホームで最期を迎えたいという希望があれば、自然な形で看取りたい考えである。	○	近い将来、終末期に向けた取り組みを可能にしていく方向で検討中ではあるが、時間を要する。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	全ての職員が利用者一人ひとりの誇りを尊重しながら接している。職員が利用者の部屋に入る時は必ず本人の許可を得て、入室するなどきちんと実施されている。又、個人情報保護についてもよく理解して対応している。	○	今後も日々のケアの場面で、馴れ合いにならないように気を配りながらの支援を期待する。
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な1日の流れのスケジュールはあるが、時間を区切った過ごし方はしていない。職員は利用者のペースや体調に合わせたケアを支援し、穏やかに過ごせるよう配慮している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	キッチンが対面式でないため、利用者にはリビングのテーブルで野菜を切ったり、皮を剥いたりして手伝ってもらっている。職員と利用者が同じテーブルに座り、楽しく会話をしながら食事できる雰囲気作りをしている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	基本的に毎日入浴できるようになっている。時間帯は午後2時からとなっていて、入浴順は希望に添えるよう対応している。ゆったりとくつろいだ気分で入浴できるよう努めている。	○	シフトの都合上、入浴時間は午後2時からとなっているが今後、夜勤が2人体制になれば夜の入浴も可能となるように考えている。
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	毎日の暮らしの中で一人ひとりに合った楽しみや役割を見つけて支援をしている。畑仕事・洗濯物たたみ・干し柿づくり・食事づくりなどである。外食に出かけることも利用者の楽しみの一つとなっている。又、レクリエーションの多彩な表があり、毎日何をしたいのか利用者に聞きながら行っている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	気分転換を兼ねた散歩やドライブ、喫茶店や外食時にはおやつを持って出かけるなど外出支援には十分配慮している。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中、玄関や勝手口には鍵をかけず、自由な暮らしを支援している。外へ出る人には声をかけ一緒に付いていき見守りをしている。勝手口から必ず出て徘徊する人がいるが、(故障中)の貼紙をしたら徘徊しなくなったとのことである。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防署の指導のもと、年2回利用者と共に避難訓練を行っている。消防署への通報から始まって消火器の使い方なども訓練している。消防署の担当者の人の携帯番号も聞いていて、緊急時の対応の準備はできている。地域へは運営推進会議で、協力の働きかけをしている。	○	近隣へは日頃から意識的に緊急時の協力が得られるよう働きかけることを期待する。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者一人ひとりの食事量チェック表、排泄チェック、水分摂取量のチェック表がある。栄養失調や脱水症状を防ぐため、個々の摂取量の把握に努めている。	○	おおまかな栄養摂取量の把握はできているが、栄養の偏りを防ぐために定期的に栄養士などに専門的なアドバイスをもらう取り組みも期待したい。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングには利用者と一緒に作った季節感のある壁面飾りを取り付けたり、トイレ・浴室もわかりやすい表示となっている。玄関や中庭のベランダに長イスを置いて、思い思いにくつろげるようになっている。又、廊下には利用者が書いた各ユニットの名前が大きく書かれた作品が貼ってあり、温かみのある空間である。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には家族の写真やダンス・イスなど利用者の馴染みの物が持ち込まれ、それぞれに居心地よく過ごせる場所となっている。		